

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		生命と女性を支える看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2・3年		学期及び曜時限	通年	教室名	実習施設
担 当 教 員		中井 京子	実務経験とその関連資格	医療施設にて助産師としての勤務後、助産師教育の経験を有す。 医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》							
女性のライフサイクルの母性成熟期(成熟期)、母性継承期(更年期・老年期)の健康課題や健康問題を捉え、女性の生涯を通じた健康維持・促進に必要な看護を行うための基礎的能力を養う。また、対象との関りを通して、自らの母性・父性意識を高める。							
《成績評価の方法と基準》							
実習態度、出席状況、学習内容、コミュニケーション、看護技術等により総合的に判断する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
母性看護学概論、母性看護学各論、副読本							
《授業外における学習方法》							
実習オリエンテーション(①実習要項説明 ②実習記録について ③実習マナー ⑤カンファレンスについて ⑥実習事前学習 ⑦目標シートの記載 実習後は、実習の学びをまとめ振り返りを行う							
《履修に当たっての留意点》							
授業内容を振り返り、妊娠期・分娩期・産褥期、新生児の特徴、母性看護に必要な看護技術について復習しておく。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	外来・病棟のオリエンテーションを受け、産科病棟・外来の構造と機能について知る。		所持している教科書・参考書	実習要項を読み、実習で何を学ぶのかをイメージする。 実習要項に沿って事前学習を行う。 受持ち患者の疾患・看護について学習する。	
		各コマにおける授業予定	病院オリエンテーション、外来および他部門オリエンテーションを受ける。				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象のライフサイクルにおける発達課題・健康問題を理解する。		所持している教科書・参考書	アセスメントを行ない、標準を立案する。 必要な援助について学習する。	
		各コマにおける授業予定	女性患者を受持ち、身体・心理・精神、社会的側面から情報をとり、対象の発達課題・健康問題を捉える。				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康の維持・促進に向け、対象の状態に応じた援助を考え実施する。		所持している教科書・参考書	アセスメント、看護計画の追加・修正を行う。 必要な援助について学習する。	
		各コマにおける授業予定	受持ち患者に必要な看護計画を立案し実施する。				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	産婦人科外来を受診する患者の看護について理解する。		所持している教科書・参考書	産婦人科外来を受診する患者検査・診察介助について学習する。見学、実施を振り返り追加学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	看護師に同行し、診察介助・保健指導の見学・介助を行う。				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の役割、看護師間・多職種との連携の重要性を理解する。		テキスト・参考書	カンファレンスで看護師の役割を発表できるように行った看護について整理しておく。	
		各コマにおける授業予定	実施した看護の振り返り、カンファレンスを通して女性の生涯を通じた援助における看護師の役割、多職種連携の重要性について学びを共有する。				